

- ★ 低温・強風で生育が抑えられたほ場が多い！
 ★ ほ場毎に茎数を確認し、中干しの適期実施を！

1 君津地域の生育概況

3月～4月初めにかけて、最高気温が高めに推移した一方で、最低気温は平年並みとなり、気温の上下が大きかったため、育苗に苦労された方も多かったと思います。夜間の温度が確保できたかどうかで、草丈が高い人と低い人に分かれる傾向がありました。

移植後については、4月中下旬の降雨及び低温の影響で、早生品種を中心に生育が停滞しました。その後は、5月上旬から中旬にかけての数日を除いて、天候に恵まれたため、生育が平年並みにまで回復しつつあります。しかし、高温の影響もあり、還元障害の影響が見られるほ場もあります。また、藻類の発生が多くなっています。

数日気温が低い日もありましたが、今後、高温が予想され、茎数が順調に増えると考えられるため、茎数が確保されたら、茎数過剰になる前に中干しを開始しましょう。低温や風の影響で生育が停滞したほ場では、浅水管理を行い、早期の生育や茎数確保に努めましょう。

2 生育調査ほの調査結果※（5月20日）

品種		田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R2年	4/16	7.1	25.7	10.4	166
	平年	4/16	7.3	26.0	12.9	197
	平年比	±0	-0.2	99%	81%	84%
ふさこがね (木更津市)	R2年	4/23	5.8	24.0	4.8	91
	昨年との比較	—	遅い	並み	少ない	少ない
コシヒカリ (君津市)	R2年	4/26	4.8	28.6	13.6	212
	昨年との比較	—	遅い	並み	多い	多い
粒すけ	木更津市	4/21	—	27.6	11.4	210
	君津市	5/2	5.4	25.8	7.1	116

※平年値は過去10か年（平成22年～令和元年）平均値。ただし、「ふさこがね」、「コシヒカリ」は近年、調査ほ場の変更があったため、昨年と比較した生育進度（葉令は0.5、他は10%以上の差がある時に多い（少ない）等と記載）を記載しています。

また、「粒すけ」は令和2年度より一般栽培が始まった千葉県が育成した新品種です。ただし、木更津市のほ場は参考ほ場のため、簡略化した調査結果になっています。

-郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。
電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 宇津木 i.utsg2@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

3 これからの管理のポイント

① ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

今年は、稲わらの分解による「ワキ（ガス害）」の影響が出ているほ場が散見されますので、表1の中干し開始時期の目安を確認し、目標茎数に達し次第、中干しを開始して根の生育を促しましょう。中干しは、稲の生育に大きな影響を及ぼし、かつ生育制御ができる重要な管理作業です。

目標茎数に達していないほ場では、引き続き浅水管理で茎数確保を図る必要があります。一方、5月下旬は高温が予想され、茎数が急激に増加する可能性が高いため、中干しが遅れないように注意しましょう。

中干しの強さは、田面に軽い亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まない位を目安とします。

表1 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	4月20日	480本/㎡ (27本/株)	480本/㎡ (27本/株)	440本/㎡ (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/㎡	310本/㎡	300本/㎡
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

② ばか苗病の発生・対策について

「ばか苗病」が種子生産ほ場及びその周辺ほ場で発生すると、種子として出荷できなくなります。千葉県内の種子生産ほ場の半分以上は君津地域に存在します。県産優良種子の安定生産のためにも、「ばか苗病」を本田で確認した際には抜き取り及び田んぼから離して処理し、新たな感染源とならないよう御協力をお願いします。

③ 稲わらの分解による「ワキ（ガス害）」に注意！

一部のほ場で、「ワキ」による生育障害が見られています。これは、冬場に十分分解しなかった稲わらが気温の上昇とともに分解され、還元状態になった土壌から植物の根に有毒なガスが発生することで生育が停滞するためです。稲は下葉から垂れて黄色くなって、草丈は低く分けつは出にくくなります。赤枯れ症状とも呼ばれるいもち病のような斑点が見られることもあります。

基肥をしっかり入れたにもかかわらず葉色が薄い等の生育停滞が見られる場合には、「ワキ」を疑い、生育障害のある部分に棒などを刺してガスの発生を確認してください。

この対策として、軽く田干し（1～2日間落水）を実施します。地表から水が無くなると、ガスが抜け、根には酸素が補給され、根は地中深く伸びるようになります。

④ （三島ダムの水位低下による渇水への対策として）節水への御理解と御協力を！

5月中旬から下旬にかけて降雨もありましたが、今後の梅雨の降雨状況によっては渇水となる可能性があります。かけ流し防止や漏水防止による節水への御協力を今後もお願いします。